

# 株式会社24時間通信

〒003-0826 札幌市白石区菊水元町 6 条 3 丁目6-46  
TEL 011-871-2455 FAX 011-871-2444

25年  
11月号

あなたもが30秒で情報通！活用法いろいろ コミュニケーションペーパー



## 11月の祝日 その起源と由来は？

### 11月の祝日

11月3日 文化の日

2025/11/23 勤労感謝の日



#### ・この祝日の起源と由来

1852年(嘉永5年)11月3日は、明治天皇(睦仁)の誕生日「天長節」として祝日になりました。

1927年(昭和2年)11月3日は、大正天皇の崩御後に「明治節」として定められ、明治天皇の功績を偲ぶ祝日となりました。

1946年(昭和21年)11月3日は、平和と文化を重視する日本国憲法が公布された日です。

1948年(昭和23年)11月3日は、公布された祝日法により、「自由と平和を愛し、文化をすすめる」ことを趣旨とする「文化の日」として定められました。



#### ・この祝日の起源と由来

農耕による収穫を神々(自然・土地・祖先の霊)に感謝する儀式がありました。宮中では「新嘗祭(にいなめさい)」という儀式が行われており、天皇や宮廷がその年に採れた新穀を神前に供え、自らも食することで収穫に感謝するものでした。

収穫を感謝する新嘗祭の時期が太陰暦(旧暦)11月のうさぎの日(卯の日)などとされており、太陽暦移行後の調整として明治時代に「新暦11月23日」がこの儀式の日として定まっていきました。

この日は、働く人・仕事・生産活動・それによってもたらされる成果に対して、感謝の気持ちを新たにする日とされたのです。



## かまぼこの健康効果

かまぼこ（蒸し魚肉練り製品）は、日本の伝統的な食品でありながら、栄養バランスや健康面でも優れた効果を持っています。以下に「健康効果」と「その要因（成分・特性）」を整理して説明します。

### 生活習慣病予防に役立つ

魚のたんぱく質やミネラル（カリウム、マグネシウムなど）が血圧調整や脂質代謝の改善に寄与し、動脈硬化や高血圧の予防につながります。

### 消化吸収がよく、胃腸にやさしい

魚の身をすりつぶして加熱した食品のため、消化吸収率が非常に高く、病後や高齢者にも適しています。

### 低カロリーでダイエットにも向く

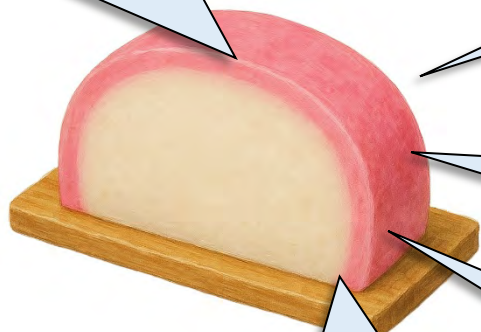
ヘルシーなたんぱく源としてダイエット中にもおすすめです。100gあたり約95kcal前後と、肉類よりカロリーが低いため

### 高たんぱく・低脂肪で体づくりに良い

筋肉や皮膚、免疫細胞の材料となる良質なたんぱく質を効率的に摂取できます。かまぼこは魚のすり身を主原料としており、高たんぱく・低脂肪食品です。

### カルシウム補給に役立つ

骨や歯の健康維持、骨粗しょう症予防にも一助となります。魚の骨ごと使用される製品もあり、カルシウム含有量が比較的高めです。





# 株式会社24時間通信

〒003-0826 札幌市白石区菊水元町6条3丁目6-46  
TEL 011-871-2455 FAX 011-871-2444

25年  
11月号

あなたも30秒で情報通! 活用法いろいろ コミュニケーションペーパー



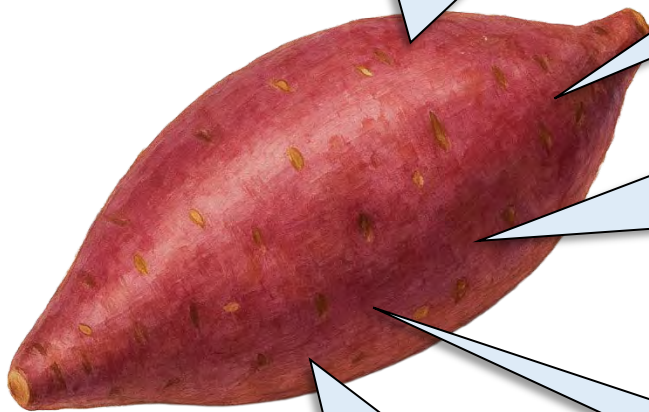
## さつまいもの健康効果

### 腸内環境を整える(便秘改善)

食物繊維が豊富(特に皮の部分に多い)。さらにサツマイモ特有の成分「ヤラピン」が腸の動きを促進。「お通じを良くする」「腸内の悪玉菌を減らす」効果があります。

### 抗酸化作用で「老化防止」や「免疫力アップ」

ビタミンC・E、ポリフェノールが活性酸素を除去。動脈硬化・シミ・シワなどの「酸化ストレス」に対抗。加熱しても壊れにくい“でんぷんに守られたビタミンC”が特徴です。



### 血糖値をゆるやかに上げる(エネルギー安定)

炭水化物が多い一方で、血糖上昇度が低め。食物繊維が多いため、糖の吸収をゆるやかにし、エネルギーを持続的に供給します。ダイエット中の間食や朝食に適しています。

### 生活習慣病の予防

カリウムが塩分を体外に排出するので高血圧を予防。抗酸化物質がコレステロール酸化を防ぎ、動脈硬化を抑制。食物繊維・ポリフェノールの効果で血糖や中性脂肪の上昇を防ぐ。

### 美肌効果

ビタミンCがメラニン生成を抑制し、シミ・そばかすを防ぎます。食物繊維で腸が整うと、肌のターンオーバーも改善。紫芋のアントシアニンは「目の健康」「肌の血行促進」にも良い。

# 株式会社24時間通信

〒003-0826 札幌市白石区菊水元町 6 条 3 丁目 6-46  
TEL 011-871-2455 FAX 011-871-2444

25年  
11月号

あなたも **30秒** で情報通! 活用法 いろいろ **コミュニケーションペーパー**



## 健康を守るために 健康に影響する物質を知ろう

空気中には健康を阻害するさまざまな物質が含まれていることがあります。以下のように発生物質と健康への影響で分類してみました。

### 空気中の健康に影響する物質

#### 生物・微生物由来のもの

**細菌・ウイルス**

感染症（インフルエンザ、  
COVID-19など）

**ダニ・ペットのフケ**

アレルギー性鼻炎

喘息の原因



#### 室内特有の有害物質

**ホルムアルデヒド**

シックハウス症候群、目や  
喉の刺激

**タバコ煙**

循環器疾患、呼吸器疾患

**二酸化炭素**

集中力低下、頭痛、眠気

#### 大気汚染物質

**PM2.5** 肺の奥まで入り込み、喘息・肺炎・  
心疾患のリスク上昇

**一酸化炭素** 頭痛・吐き気・意識障害

**二酸化窒素** 呼吸器への刺激、ぜんそく悪  
化

**二酸化硫黄** 喉の痛み、咳、気管支炎など

**揮発性有機化合物** シックハウス症候群、  
めまい、倦怠感

#### 自然由来の汚染物質

**花粉** 花粉症（鼻炎・目のかゆみ）

**黄砂** 呼吸器刺激、アレルギー反応

**カビの胞子** アレルギー、気管支炎、感染症

**火山灰** 咳、目の痛み、気道刺激

国税庁の税の『歴史クイズ』はおもしろい、めずらしい税金を解説しています。今回、動物に課税例を調べてみました。世の中不思議な税があるものですね。



昭和50年代まで、市町村税の一つに犬税がありました。

もともとこの犬税は、明治時代から府県税として存在しており、府県ごとに課税方法が異なっていました。

大正13年に大蔵省主税局がまとめた『大正13年度 道府県雑種税課率調』という史料には、各道府県の課税標準などが記載されています。これによると、多くの府県では犬1頭につき一律いくら、といった形で課税をしていましたが、飼育地域や飼育目的によって課税の可否と税率を決めている府県もあり、さらには、特定の犬種を指定して税率を決める府県もありました。この犬種を決めていたのは、京都府と群馬県なのですが、では、この特定の犬種とは次の1から4のうちどれでしょうか。

1 柴犬 2 スピッツ 3 シェパード 4 狆(ちん)

答えは 4 狆

京都府、群馬県では「獵犬、狆」と「其の他」とで税率に差を付けており、前者の税率の方が高く設定されていました。

『大正13年度 道府県雑種税課率調』を例に、大正13年当時の状況を確認してみましょう。東京、大阪、神奈川、京都、兵庫など大都市を抱える府県では、郡部か都市部かといった飼育場所で差が設けられました。このほかに、宮城県や秋田県、滋賀県、徳島県などは「獵犬」とそれ以外、といった飼育目的で区分されていました。「獵犬」のほかに「闘犬」(高知県)や「愛玩犬」(岩手県)など、飼育目的を掲示している県はありましたが、犬種を指定されているのはこの狆だけです。

狆は、日本原産の小型の愛玩犬で、近世から上流階級や花柳界などで盛んに飼育されていました。「愛玩犬」を課税標準に掲げる県もありましたが、わざわざ狆と指定しているところに、狆が愛玩犬の代表として認識されていたことがうかがわれます。

(研究調査員 今村千文)







江戸時代のある藩で、「犬銀」という犬に関する租税がありました。犬銀はどのような租税だったのでしょうか。

- 1 飼い犬の頭数に応じて飼い主に課す贅沢税
- 2 藩主の飼い犬の餌代として領民に課す租税
- 3 犬を売買した頭数に応じて課す取引税

## 2 藩主の飼い犬の餌代として領民に課す租税

犬銀は、信州松代藩(真田家)の税目で、犬は、愛玩用のペットではなく、殿様が鷹狩りで連れ従わせる猟犬のことでした。鷹狩りは、古代から権力者の娯楽として行われており、戦国時代以降は織田信長や徳川家康に好まれ、8代将軍徳川吉宗が制度を整えました。諸大名は、自領内に狩場を設定し、参勤交代で江戸滞在中には幕府に狩場を借りて、鷹狩りを楽しみました。松代藩では、このような猟犬の餌代を租税として、領内全般に課していたのです。

犬銀の他にも、動物の餌に関する租税がありました。

鷹狩りの鷹は、狩猟に用いる猛禽類全般(鷲・鷹・隼)の呼称で、肉食の鳥でした。そのため、幕府や諸藩では、毎日鳥肉などの餌を準備する必要がありました。幕府では、江戸周辺の村々に虫や小鳥を租税として上納させました。次いで、鷹狩り制度を整備した徳川吉宗により、鳥の売買を独占する鳥問屋10軒が設定され、のち岡鳥問屋8軒と水鳥問屋6軒に分けられました。岡鳥問屋は幕府の御鷹の餌鳥請負人を兼ね、鳥を捕獲する餌差(えさし)に交付する免許鑑札836枚を預かり、餌差を編成・管理し、幕府には年間に雀換算で40万から50万羽の鳥を上納していました。問屋は、上納した残りの鳥を独占的に売買することができたのです。

また、江戸時代の人々にとって、最も馴染みが深い動物が馬でした。武士は農村を離れ、城下町で生活していたので、都市部で馬の餌を調達する必要がありました。諸藩などでは、糠藁(ぬかわら)代という雑税(小物成)がありました。古くは現物納で馬の餌とされてきましたが、次第に代銭納となりました。都市部の馬は、糠と藁を餌にしていたと思われます。ただし、糠藁代は幕府の税目にはありませんでした。一方で、馬の兵糧は、運搬の便もあり、中世から大豆が充てられてきました。大豆の確保には、年貢米の一部を大豆に引き替える、年貢のほかに付加税として大豆を課すなどの方法が採られました。兵糧としての大豆は、幕府と諸藩で共通し、独自の税目ではなく、年貢や年貢の付加税として課されていました。

(研究調査員 舟橋明宏)





明治6(1873)年12月、東京府は、全国でも珍しい新税を課税しました。当時の東京は、新橋～横浜間の鉄道が開業するなど、近代日本の首都として、文明開化の街へと変貌を遂げようとしていました。

では、そんな東京で課税された「生き物」とは何でしょうか。

1 オウム 2 兎 3 金魚

答えは 2 兎

明治5年の新聞には、東京で流行するものとして、ザンギリ頭に帽子、新聞屋、士族の商法、牛肉屋の開店、そして「秘密の兎会」と書かれています。鉄道や銀座レンガ街建設など、文明開化の中心となった東京で、外国産の珍しい兎をペットとして飼育することが大流行しました。相撲取や歌舞伎役者のように兎の番付が作られ、高額展览展示即売会(兎会)が頻繁に開かれていました。珍しい毛並みの兎は人気を博し、当時の巡査の初任給が4円程度だったのに対し、なかには1羽数百円もの高値で取引されるなど、商家の旦那衆だけでなく華族や士族、僧侶までが熱狂したのです。

当然、兎は投機の対象となり、兎で一攫千金を目論む者も現れます。そして、ブームの加熱は、普通の白い兎に色を塗った偽物を売る者が現れるなど社会問題化しました。東京府も「兎会」禁止に乗り出しますが、秘密会どころか堂々と「兎売捌所」(うさぎうりさばきじょ)の看板や幟を出す者もいる始末で、その取り締まりに苦慮しました。厄介なのは外国人名義のもので、東京府は政府を通じて各国公使館に禁止を願い出ますが、政府や外務省は外国人の自由な商業活動を制限できないと消極的です。そこで東京府は「華士族の没落」防止を理由に禁止を願い出ますが、今度は司法省が華士族だけの禁止はできないと主張し、日本人だけの禁止令にも反対します。東京府は、司法省と協議を重ね、兎の売買を認めるかわりに1羽につき月額1円の兎税を課税しました。飼育する兎についても毎月届け出ることとし、無届の場合は2円の過怠金が課せられました。兎1羽で月1円というのは、とんでもない重税です。

この兎税により兎の価格は暴落し、兎会はもとより、店先からも兎は姿を消します。異常なブームは沈静化しますが、兎にとっては悲劇でした。二束三文で売買されたり、川に捨てられたり、ひどいのは「しめこなべ」にされたものもありました。ただ、一部の愛好家たちは、その後も高い税を払いながらペットとして飼育し続けたようです。

(研究調査員 牛米努)





大正15年（1926年）に、清涼飲料税が新設されました。お酒を対象とした「酒税」は歴史も古く有名ですが、清涼飲料水を対象とした「清涼飲料税」が存在していたことはあまり知られていません。

この清涼飲料税は、ある条件を満たした清涼飲料水だけに課税されました。さて、次の1～3のうち、清涼飲料税が課された清涼飲料水はどれでしょう。

1 ミネラルウォーター 2 サイダー 3 オレンジジュース

答えは 2 サイダー

清涼飲料税の対象となる清涼飲料水は、「炭酸ガスを含んでいること」が条件でしたので、サイダーなどの炭酸飲料だけが対象となっていました。ミネラルウォーター（天然水）、オレンジジュース（果実汁）、レモネード（果実糖飲料）などの清涼飲料水は非課税でしたが、それらに炭酸ガスを加えて発泡させた炭酸飲料は課税対象になりました。

また、天然水でも、湧出する炭酸水（天然炭酸鉱泉水）をビン詰めして販売すると課税対象でした。清涼飲料税が新設された背景として、当時のサイダー類の消費拡大が挙げられます。明治末年頃からビール会社を中心としてサイダー、シトロン（レモンに似た柑橘系の香料を加えた炭酸水）、ジンジャエールなどが大規模に製造販売されビールと同じような高級飲料として扱われるようになりました。つまり、サイダー類は、高級嗜好品として世間に認知されたため、課税対象となったのです。一方、価格が低廉で大衆向けであったラムネ（玉ラムネ）については、高級嗜好品であるサイダー類の半分程度の税率とされていました。

なお、清涼飲料税は昭和24年（1949年）に廃止され物品税へと統合されました。物品税法による炭酸飲料への課税は減税を繰り返しながらも存続し、最終的には平成元年（1989年）に消費税へ組み込まれました。

（研究調査員 渡辺穰）



引用は国税庁「税の歴史クイズ」より

<https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/sozei/quiz/index.htm#page-top>